

基礎・境界 ソサイエティ

ニューズレター

February 2007 No.60



The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

| | | |
|----|--|---|
| 目次 | 新ソサイエティ誌 Fundamentals Review 創刊のお知らせ | 1 |
| | 基礎・境界ソサイエティ編集会議による表彰について | 1 |
| | 平成 18 年度 ESS 幹事会メンバ紹介 (その 2) | 2 |
| | 平成 18 年度 ESS 運営委員会メンバ紹介 (その 1) | 3 |
| | Call for Papers: Special Section on Concurrent/Hybrid Systems: Theory and Applications | 5 |
| | Call for Papers: NOLTA2007 | 7 |

新ソサイエティ誌 Fundamentals Review 創刊のお知らせ

基礎・境界ソサイエティは、従来のニューズレターを大幅に発展させた新ソサイエティ誌 Fundamentals Review を 2007 年度より発行することになりました。これに伴い、本ニューズレターは次号の No. 61 (2007 年 4 月 1 日発行) が最終号となります (*注 1)。Fundamentals Review は年 4 回の発行を予定しており、従来のニューズレターの内容にとどまらず、学会誌よりも専門性の高い解説記事や論文、会員数・表彰者など本ソサイエティに関する基礎データ、本ソサイエティをメインに活動されている研究室や研究者の紹介記事、本ソサイエティに対するご意見などを掲載していく予定です。会員間の情報共有および意見交換の場として活用していただければ幸いです。本ソサイエティではこのため、各研究会から編集委員を推薦していただき、中村勝洋先生 (千葉大) を編集長とする Fundamentals Review 編集委員会を 2007 年 1 月に発足させました。今後、基礎・境界ソサイエティ会員の皆様のアクティビティを宣伝する場として活用していただければ幸いです。

(*注 1): ニューズレター最終号 No. 61 (2007 年 4 月 1 日発行) への記事掲載を希望される方は、**2007 年 2 月 23 日**までに現ソサイエティ誌担当幹事 酒井 (sakai@newswatch.co.jp) までテキストファイル (*.txt など)、画像ファイル (*.jpg など) をお送りください。従来どおり、論文募集案内、会議開催案内、会議参加報告、研究会紹介・活動報告、その他、本ソサイエティに対するご意見などを受け付けております。

基礎・境界ソサイエティ編集会議による表彰について

基礎・境界ソサイエティ編集会議

昨年度、基礎・境界ソサイエティ運営委員会において、「基礎・境界ソサイエティ編集会議選奨規程」が承認されました。これは、ソサイエティの編集に関する活動の内、該当担当に関して顕著なる貢献のある方を基礎・境界ソサイエティ編集会議が表彰するものです。今回、第 2 回として、次の方々が表彰を受けられましたので、お知らせいたします。対象者は、昨年度まで論文誌編集委員を務められた方と、これまで多くの論文を査読いただいた方で、ソサイエティの編集活動にご貢献いただきました。

賞の名称：基礎・境界ソサイエティ編集活動感謝状

<和文論文誌編集委員として>

| | |
|--------------------|------------------|
| 石橋 孝一郎 (ルネサステクノロジ) | 伊藤 貴之 (お茶の水女子大学) |
| 桑門 秀典 (神戸大学) | 橘 昌良 (高知工科大学) |
| 角尾 幸保 (日本電気) | 中迫 昇 (近畿大学) |
| 中島 弘之 (近畿大学) | 早川 義一 (名古屋大学) |
| 前田 英作 (日本電信電話) | 棟安 実治 (関西大学) |
| 山名 早人 (早稲田大学) | 渡部 英二 (芝浦工業大学) |

<英文論文誌編集委員として>

| | |
|----------------|---------------|
| 横尾 英俊 (群馬大学) | 今井 桂子 (中央大学) |
| 大濱 靖匡 (九州大学) | 藤井 俊彰 (名古屋大学) |
| 兵庫 明 (東京理科大学) | 平石 邦彦 (JAIST) |
| 増田 士朗 (首都大学東京) | |

<査読委員として>

| | |
|----------------|--------------|
| 徳永 隆治 (筑波大学) | 梶川 嘉延 (関西大学) |
| 田口 亮 (武蔵工業大学) | 得能 貢一 (鳥取大学) |
| 池原 雅章 (慶應義塾大学) | 棟安 実治 (関西大学) |
| 村松 正吾 (新潟大学) | |

※敬称は略させていただきます

平成 18 年度 ESS 幹事会メンバ紹介(その 2)



岡本 栄司(ソサイエティ副会長)

1950 年生まれ。1978 年東京工業大学理工学研究科博士課程修了。工学博士。1978 年日本電気(株)大学を経て 2002 年より筑波大学システム情報工学研究科教授、現在に至る。入社以来、おもに暗号と情報セキュリティの研究に従事。情報処理学会理事、International Journal of Information Security 編集長。

ひとこと：若い人たちが研究に対する意欲を一層かきたてられるような環境作りに貢献できればいいと思っています。



荻田 武史(事業担当幹事)

1977 年生まれ。2003 年早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程了。博士(情報科学)。2003 年同大学院理工学研究科客員講師。2005 年科学技術振興機構(JST)研究員。数値計算の研究に従事。

ひとこと：学会の仕事に役員として本格的に携わるのは、実はこれが初めてで、色々と勉強させていただいております。少しでも学会のお役に立つことができるようがんばりますので、よろしく願いいたします。

平成 18 年度 ESS 運営委員会メンバ紹介(その 1)



中野 敬介 (ハンドブック委員)

1966 年生まれ。1994 年新潟大学大学院自然科学研究科博士課程修了。博士(工学)。現在、新潟大学自然科学系助教授。専門はネットワーク工学です。

ひとこと：従来の冊子形式のハンドブックではない電子版の知識ベースの構築に向けて、現在準備が行われております。私は基礎・境界ソサイエティとハンドブック/知識ベース委員会準備会との橋渡し役をさせて頂いております。今後も知識ベースの構築に対するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



牧野 昭二 (応用音響研究会委員長)

1956 年生まれ。1981 年東北大学大学院工学研究科修士課程修了。博士(工学)。

1981 年 日本電信電話公社(現 NTT)入社、電気音響変換器、音響エコーキャンセラ、ブラインド音源分離などの音響信号処理の研究に従事。現在、NTT コミュニケーション科学基礎研究所メディア情報研究部長。北海道大学大学院情報科学研究科客員教授。Aソ英文論文誌「音情景分析と再生」小特集編集長。

ひとこと：現在、応用音響研究会委員長を務めています。来年度は、音響・超音波のサブソサイエティの会長、本ソサイエティの副会長として、ソサイエティ全体の発展に貢献したいと思っていますので、よろしくお願い致します。



内平 直志 (コンカレント工学研究専門委員会)

1982 年東京工業大学理学部情報科学科卒業。工学博士。1982 年(株)東芝入社、ソフトウェア工学、リスク工学、MO T などの研究開発に従事。2005 年よりコンカレント工学研究専門委員会委員長。

ひとこと：コンカレント工学研究専門委員会が発足して 14 年目になりますが、並行・並列・分散システムはもはや珍しいものではなく、コンカレント技術に関する社会のニーズも変わりつつあります。研究専門委員会では、コンカレント技術のロードマップの作成や活性化のためのアルゴリズムコンペティション企画などに取り組んでいます。



金子 峰雄 (回路とシステム研究専門委員会)

1958 年生まれ。1986 年東京工業大学理工学研究科博士後期課程修了。工学博士。1986 年東京工業大学助手、1988 年同講師、1992 年同助教授、1996 年北陸先端大助教授、2001 年同教授、現在に至る。専門は回路理論、信号処理、集積回路の EDA など。

ひとこと：回路とシステム研究会では、従来の回路理論、電子・集積回路、信号処理に関する話題はもとより、広く分野横断的あるいは分野未確定のシステムに関する話題を歓迎します。軽食を取りながら討論を深めるランチ懇談に加えて、平成 18 年度からは優れた研究会発表を行った学生を表彰する制度も始めました。研究発表・討論の場として、積極的にご利用下さい。



黒田 一朗 (信号処理研究専門委員長)

1958 年生まれ。1982 年東京大学工学部計数工学科卒業。北海道大学より博士 (工学)。1982 年日本電気株式会社入社。メディア処理用プロセッサアーキテクチャの研究開発に従事。同社メディア情報研究所研究部長を経て、現在 NEC エレクトロニクス株式会社事業企画部に勤務。1989 年～1990 年米国カリフォルニア大学バークレー校 EECS 学科 Visiting Industrial Fellow。電子情報通信学会英文論文誌 A 編集委員、幹事。IEEE Signal Processing Society, Design and Implementation of Signal Processing Systems Technical Committee Member など。

ひとこと: 信号処理研究会の技術領域は、基礎理論から、音声・画像、通信への応用、LSI などへの応用実現まで幅広く、学際的な面もありますが、歴史的には新しい方法論の開拓が大きな役割と考えております。今年は委員の方々のご尽力により新しい数理的手法、計算技法の信号処理への展開に向けて数理分野の方々との交流を進めております。



亀田 弘之 (思考と言語研究専門委員会委員長)

1958 年生まれ。1982 年東京大学工学部卒業。1984 年、東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻修士課程修了。1987 年、同大学院電子工学専攻単位取得の上満期退学。同年、工学博士取得。1987 年以降東京工科大学にて情報系および応用数学系科目等の教鞭をとっている。現在、コンピュータサイエンス学部助教授。趣味はサッカーをすること。

ひとこと: 専門は A です。人間の知能の中核である「思考と言語」の基礎的・境界的かつ学際的な解明を通じて、「思考と言語」という学問分野確立のための基礎作りを目指しています。A 分野から新たな学問分野を一緒に創成しませんか？



木下 宏揚 (技術と社会・倫理研究専門委員会委員長)

1962 年生まれ。1990 年東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。工学博士。1990 年東京工業大学助手、1994 年玉川大学専任講師、1995 年神奈川大学助教授、2002 年神奈川大学教授、情報セキュリティなどの研究に従事、現在に至る。**ひとこと:** 技術と社会・倫理研究会 (SITE) は発足 12 年目を迎え、技術者倫理が問われる時代に、その重要性はますます重くなっています。倫理問題に限らず、知的財産権、ネットワーク関連法、さらにはセキュリティ技術への哲学の導入など学際的な活動を行っています。毎回、様々な分野の方が参加され、工学系の発想だけでは得られない多面的な討論を行っています。お近くの他分野の方もお誘いあわせの上、是非参加してください！



荒川 薫 (スマートインフォメディアシステム研究専門委員会委員長, 編集特別幹事)

1957 年生まれ。1986 年東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了。工学博士。東京大学工学部助手を経て、1989 年明治大学理工学部情報科学科専任講師、1992 年同助教授、1998 年同教授、現在に至る。1984 年～1985 年フルブライト奨学生としてカリフォルニア工大留学、1994 年～1995 年、カリフォルニア大サンタバーバラ校客員研究員。デジタル信号処理、特に、非線形信号処理、画像処理、音声・音響処理、生体信号処理の研究に従事。基礎境界ソサイエティでは、2001 年大会担当幹事、2003 年ソサイエティ誌編集幹事。**ひとこと:** これまで、専門がやたらと細分化され、狭く深い研究を行うのが主流でしたが、これからは少し高い視点から広く多くの

分野を見渡す研究が必要と考えられます。スマートインフォメディアシステムは人間にとって気の利いた情報システムをこのように横断的に追求する研究会です。まだ、参加されていない方、是非、ご参加下さい。



福田 収一 (信頼性研究専門委員会委員長)

1943 年生まれ。1972 年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。東大、阪大、東大（併任）を経て東京都立科学技術大学（現 首都大学東京）勤務、現在に至る。ウェストバージニア大学、スタンフォード大学、阪大客員教授。IEEE Reliability Society Vice President (Technical Operations)。

ひとこと：最近は信頼性も、信頼、信用、安心など人間の心、感覚との関連も深くなってきています。信頼性の分野もどんどん広がっておりますので、研究会でのご発表などぜひいろいろな視点から、多数の皆様のご参加をお願いいたします。

=====

CALL FOR PAPERS

Special Section on Concurrent/Hybrid Systems: Theory and Applications

The IEICE (Institute of Electronics, Information and Communication Engineers, Japan) Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences (published in November 2007).

Submission deadline: March 30, 2007.

=====

The IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences announce a forthcoming Special Section on Concurrent/Hybrid Systems: Theory and Applications to be published in November 2007.

Concurrent systems, systems in which many interacting processes run concurrently, include vast variety of real systems such as communication systems, computer software/hardware/networks, transportation systems, manufacturing systems, social systems and so on. The research on concurrent systems is shifting from fundamental theories to development of computer tools for design and verification, and application to real problems. On the other hand, hybrid systems, systems in which continuous dynamics and discrete dynamics run with interaction, have become noticed to have application to important fields such as embedded systems, man-machine systems, and systems biology. In addition, formal approaches to concurrent systems are successfully extended to ones that can handle problems on hybrid systems. Studies on concurrent/hybrid systems will be of more and more importance in the near future.

The aim of this special section is to clarify the state of art of research on concurrent/hybrid systems and to promote the future research. The topics of interest within the scope of this special section include, but not limited to, the following areas:

- Modeling, analysis, design, verification and computer tools for concurrent/hybrid systems
- Embedded systems, manufacturing systems, control systems, robotics
- Enterprise information systems, WEB systems, e-Society
- Decentralized autonomous systems, agent systems
- Biological/medical systems
- Novel applications

For the submission to this Special Section, at least one author of each paper must be a member of the IEICE. We strongly recommend that all authors apply for IEICE membership. For membership applications, please visit the web-page, <http://www.ieice.org/eng/member/OM-appli.html>

The submitted paper will be reviewed by reviewers according to the ordinary rules of the Transaction Editorial Committee. It is recommended that the lengths of a paper and a letter for this special section are within 8 and 2 printed pages, respectively. Please consult the Information for Authors that is available at the web page: <http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji.html>

Prospective authors are strongly encouraged to submit an electronic version of the manuscript in PDF format to hira@jaist.ac.jp and send Copyright transfer form via postal mail to the following address. If the electronic submission is not possible, please send four copies of the manuscripts to the following address. In case of the hard-copy submission, the top of the first page should be marked with "Special Section on Concurrent/Hybrid Systems" in red ink. The deadline for the paper submission is March 30, 2007.

Please note that if the number of accepted papers exceeds the limit, some papers may be published in the following transactions.

Kunihiko Hiraishi
School of Information Science, Japan Advanced Institute of Science and Technology, 1-1 Asahidai Nomi-shi Ishikawa,
923-1292 Japan
Phone +81 761 51 1281, Fax +81 761 51 1149, E-mail: hira@jaist.ac.jp

* Please note that if accepted, all authors should pay the page charges covering partial cost of publication. Authors will receive 100 copies of the reprint.

Guest Editor: Kunihiko Hiraishi (Japan Advanced Institute of Science and Technology)

Guest Associate Editors:

Yoshinao Isobe (AIST)

Toshimitsu Ushio (Osaka University),

Atsushi Ohta (Aichi Prefectural University)

Seiichi Kitamura (Mitsubishi Electric Corporation)

Satoshi Taoka (Hiroshima University)

Morikazu Nakamura (University of the Ryukyus)

Susumu Hashizume (Nagoya University)

Shiro Masuda (Tokyo Metropolitan University)

Shingo Yamaguchi (Yamaguchi University)

Satoshi Yamane (Kanazawa University)

=====

Call For Papers

2007 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2007)

Simon Fraser University at Harbour Centre, Vancouver, Canada, September 16–19, 2007



The 2007 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2007) will be held at Simon Fraser University at Harbour Centre, Vancouver, Canada, September 16–19, 2007. The objective of the Symposium is to provide a forum for exchange of the latest results related to nonlinear theory and its applications. Papers describing original results in all aspects of nonlinear theory and its applications are invited. Topics include, but are not limited to:

| | | |
|-----------------------|-------------------------------|--------------------------|
| Chaos and Bifurcation | Chaotic Neural Networks | Circuits and Systems |
| Oscillation | Cellular Neural Networks | Self-Validating Numerics |
| Synchronization | Learning and Memory | Modeling and Simulation |
| Coupled Oscillators | Prediction and Identification | Large-Scale Networks |
| Communication | Image and Signal Processing | Analog and Digital ICs |
| Chua's Circuits | Neuro Dynamics | Distributed Networks |
| Control | Evolutionary Computation | Power Systems |
| Complex Systems | Optimization | Robotics |
| Fractals | Fuzzy | Optics |
| Soliton | Biocybernetics | Chemistry |
| Applied Mathematics | Economics | Physics |

Symposium Committee

GENERAL CO-CHAIRS

Ljiljana Trajkovic (Simon Fraser Univ.)
Kohshi Okumura (Hiroshima Inst. Tech.)

TECHNICAL PROGRAM CO-CHAIRS

Leonid Goldgeisser (Synopsis)
Hisato Fujisaka (Hiroshima City Univ.)

SPECIAL SESSION CO-CHAIRS

Gabriele Manganaro (National Semiconductor)
Takashi Hisakado (Kyoto Univ.)

PUBLICATION CO-CHAIRS

Chi Kong Tse (Hong Kong Polytechnic Univ.)
Tetsushi Ueta (Tokushima Univ.)

FINANCE CHAIR

Keiji Konishi (Osaka Prefecture Univ.)

PUBLICITY CO-CHAIRS

Mario di Bernardo (Univ. of Naples Federico II)
Yuichi Tanji (Kagawa Univ.)

TECHNICAL PROGRAM SECRETARY

Takeshi Kamio (Hiroshima City Univ.)

SYSTEM ADMINISTRATION

Masayuki Yamauchi (Hiroshima Inst. Tech.)

GENERAL SECRETARY

Yoshifumi Nishio (Tokushima Univ.)

ORGANIZER:

Research Society of Nonlinear Theory and its Applications, IEICE

IN COOPERATION WITH:

Simon Fraser University
Technical Group on Nonlinear Problems, IEICE
Technical Group on Circuits and Systems, IEICE
IEEE Circuits and Systems Society
IEEE Vancouver Section

Paper Submission

Authors are invited to submit full papers in PDF format via the web site:

<http://nolta07.is.tokushima-u.ac.jp/>

Only electronic submissions will be accepted. Corresponding authors of accepted papers will be requested to submit a 4-page final paper for the symposium proceedings. At least one author of each paper must register for the symposium by July 10, 2007 for the paper to be included in the program. Questions concerning paper submissions should be sent to:

NOLTA2007 Secretariat Email: nolta07@is.tokushima-u.ac.jp

Special Sessions

NOLTA2007 welcomes proposals for special sessions. Proposals will be evaluated based on the timeliness and the scientific quality of the topic. Notification of acceptance will be sent to the organizers by June 8, 2007. Please submit proposals via email by April 20, 2007 to:

Dr. Gabriele Manganaro Email: gabriele.manganaro@ieee.org
Dr. Takashi Hisakado Email: hisakado@kuee.kyoto-u.ac.jp

WIP Sessions

NOLTA2007 organizes the WIP (Work-In-Progress) sessions, introduced at NOLTA2006. WIP sessions are devoted to oral presentations of new and ongoing research in nonlinear science and technology. The primary purpose of the WIP sessions is to provide young researchers, especially graduate students, with an opportunity to discuss evolving ideas with NOLTA participants. The WIP session papers will not undergo the same review procedure as regular papers. Evaluation of WIP papers will be based on timeliness, importance, and/or uniqueness (unconventionality) of considered problems and presented ideas.

Author's Schedule

| | |
|--|----------------|
| Deadline for submission of full papers for Regular Sessions: | April 1, 2007 |
| Deadline for Special Session proposals: | April 20, 2007 |
| Notification of acceptance for Regular and Special Sessions: | June 8, 2007 |
| Deadline for submission of full papers for WIP Sessions: | June 22, 2007 |
| Notification of acceptance for WIP Sessions: | July 2, 2007 |
| Deadline for submission of all camera-ready papers: | July 10, 2007 |



For more information about NOLTA2007, please visit the web site :

<http://nolta07.is.tokushima-u.ac.jp/>